全国学力・学習状況調査　稲築西義務教育学校（後期）

1　調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。
・そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2　学校における学力向上に向けての取組

〇確実な基礎・基本の習得
・毎時間の授業で形成的評価を行い，その日の学習内容を確実に定着させる。
・系統立てた朝学習を計画して，基礎・基本的な問題をスモールステップで取り組ませる。

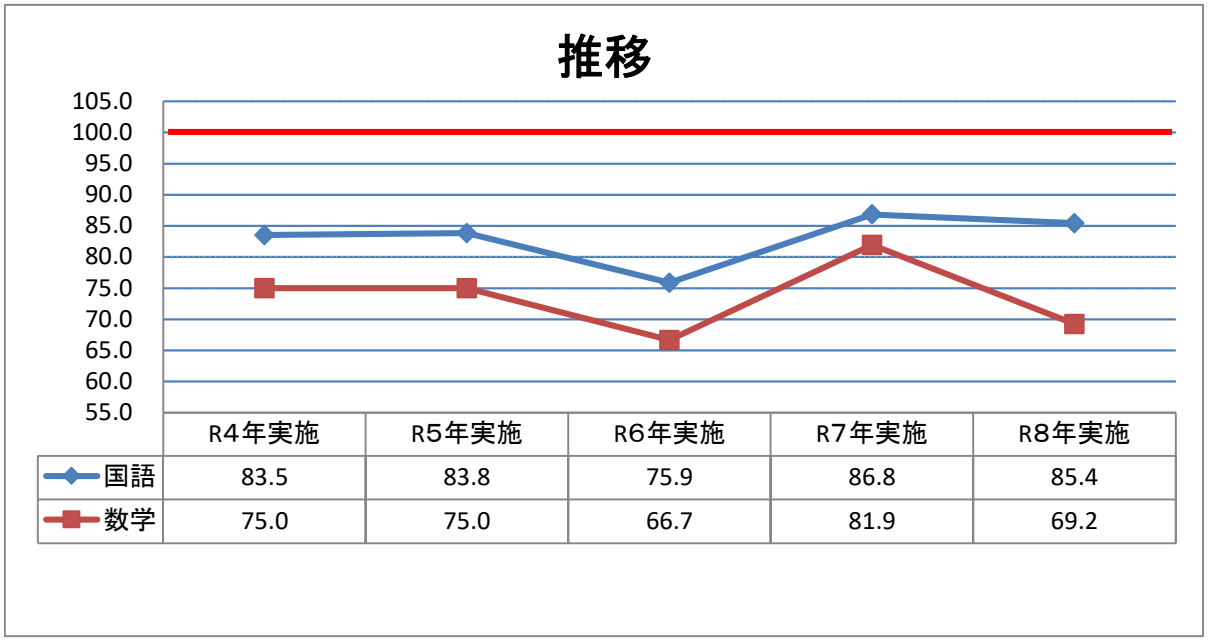
〇自学自習の習慣化と質の充実
・授業の板書やポイントを自学ノートに関連付けさせて，1日の振り返りを習慣化する。
・生徒の習熟度に応じた課題を配布し，週明けに丁寧な見直しと評価を行う。

〇主体性を引き出す授業改善
・各教科の定期考査に思考力・表現力を問う活用問題を実施して，それと関連のある授業展開を教科部会で検討する。
・データ分析を利用しての指導分析や領域別の得点率やC・D層の割合などの客観的データを詳細に分析し，改善策を検討・実行する。

〇言語活動の充実と語彙力の育成
・日常的な言語活動の中に語彙を増やす工夫を組み込み，辞書を自発的に引く場面を意図的に設定する。

3　調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国　語	数　学
本校	85.4	69.2
嘉麻市	87.5	75.8
全国	100	100



	R4年実施	R5年実施	R6年実施	R7年実施	R8年実施
国語	83.5	83.8	75.9	86.8	85.4
数学	75.0	75.0	66.7	81.9	69.2

4　各学校における分析

【国語】
〇多くの項目で県や全国の平均を下回っているものの，「気持ちが伝わるように表現を工夫して書く」問題については，県・全国平均を上回る問題が見られる。
●記述式の問題になると正答率が下がり，何も書かない（無回答の）生徒が多くなってしまう。
・問題の中身は読み取れているものの，そこから理由を付け足して「自分の言葉で説明して書く」ことへの苦手意識がある。
・国語だけでなくすべての教科で，「理由（根拠）をはっきりさせながら，筋道を立てて自分の考えを書く」活動をもっと増やしていきたい。
【数学】
〇 成果と分析・記号で選ぶ（選択式）問題では県や全国の平均とほぼ同等であり，これまでやってきた基礎・基本を大事にする取組に効果が見られた。
・特に，単元テストの後に再テストや補充を行い，その結果を次の授業改善につなげられたことが結果の要因だと考えられる。
● 成績のグループ（四分位層）で見ると，一番上のA層において，県平均との差が去年に比べてさらに広がっている。
・課題と対策・記述式の問題になると，約4割の生徒が無回答である。
・公式を覚えるだけでなく，数学的にじっくり考えて判断し，それを言葉や式で表現する学習をさらに多く取り組んでいく。
・まずは「少しでも書こう」と思えるような声かけや，自分の考えたプロセスを友達に説明するような場面を作っていく。
※　国語ではCD層が約2割，数学ではD層が約2割，全国平均と比べて高い。
※　1つ上の層との境界線上に位置する生徒が見られる。今後は，この層の確実なステップアップを図るため，以上の指導方法の改善に努めたい。

5　各学校における今後の取組

〇データの分析と職員への周知
・校内学力向上研修における「CD層の割合」や「データの分析」を通した課題の共有，および学力向上プランや二学期以降の実施内容の周知
・CD層の生徒の正確な把握に基づくアプローチの展開，および今後の確実な見取りの実施

〇基礎・基本の定着のための取組
・数学科および英語科の授業における習熟度別などの分割授業の実施
・単元内における学習内容の定着状況を調べるための単元テストの計画的な実施
・基礎・基本の確実な定着を目的としたスモールステップ問題（イナスタ）の計画的実施，および不合格者への再テストの徹底
・AIドリルおよびICT機器の効果的な活用

〇家庭学習の質と量向上のための取組
・生徒自身の弱点克服に向けた「1時間の学習内容のまとめ」などをもとに，授業と自学ノートとの連動強化
・定期考査前における学習の質の向上，および生徒の努力を称賛する機会として「自学ノートコンテスト」の開催

〇授業改善のための取組
・単元テストの計画的な実施，およびその結果を踏まえた事後の補充学習の徹底
・「主体的・対話的で深い学び」の充実を目指した，学習者が自ら学びを選択できる授業づくりの推進（教員1人1回の公開授業の設定）
・全教科における根拠の明確化と筋道を立てて考えを書く活動の設定
・定期考査での記述式問題の出題とその結果から定着度の見取り，ならびに授業改善の推進

6　嘉麻市教育委員会としての今後の取組

〇分かる授業づくりのために，単元テスト等によるより短いスパンでの子ども達の状況を把握し，個に応じた指導を充実させることで，授業改善を図って いく。
〇子どもの思考活動の充実を図るために，一単位時間の授業の流れのモデルを基にした授業づくりやICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進に努める。
〇家庭学習の習慣化を推進するために，「家庭学習のすすめ」等を活用した効果的な家庭学習の設定について改善を図る。
〇上記の3点について，嘉麻市学力向上検証委員会や主幹教諭研修会等において各校の取組を交流することで，各校における確実な実施を図るとともに，好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して， 充実を図っていく。